

経済・金融 フラッシュ

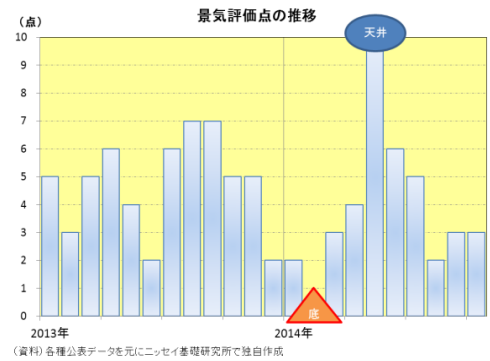
中国経済:14年10月の景気評価点 ~3点で底這いも、投資には底打ちの兆し

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

○10月の景気評価点は前月と同じ3点となった。直近最低点である8月(2点)よりはやや高いものの、上向いている指標は3つだけで下向いている指標の方が多く、中国の景気は底這いの状態が続いている。

○需要面から見ると底打ちの兆しがでてきた指標もあるが、供給面の指標は下向きのままである。需要の回復が供給に波及していくのか、それとも需要の回復は一時的に終わるのか、来月発表の景気指標に注目したい。



[10月は前月と同じ3点]

中国では10月の景気10指標¹がほぼ出揃った。それぞれを3ヵ月前と比べて上向きであれば“○=1点”、下向きであれば“×=0点”として集計したものを筆者は景気評価点と呼んでいる。10月は、○から×に転じた指標が3つ、×から○に転じた指標も3つで、景気評価点は前月と同じ3点となった。直近最低点である8月(2点)よりはやや高いものの、上向いている指標は3つだけで、残りの7つは依然として下向いており、中国の景気は底這いの状態が続いている(図表-1)。

(図表-1)

使用データ種類	需要面			供給面			その他				評価点 ○の数 (点)
	小売売上高	固定資産投資	輸出金額	工業生産	製造業PMI	非製造業 商務 活動指数	電力消費量	鉄道貨物 輸送量	生産者物価 (PPI)	通貨供給量 (M2)	
	前月比	前月比	前月比	前月比	原数値	原数値	前年同月比	前年同月比	前月比	前年同月比	
2014年1月	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	2
2014年2月	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0
2014年3月	○	—	○	○	×	×	×	×	×	×	3
2014年4月	×	×	○	○	×	○	○	×	×	×	4
2014年5月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
2014年6月	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	6
2014年7月	○	×	×	—	○	×	×	○	○	○	5
2014年8月	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	2
2014年9月	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	3
2014年10月	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	3

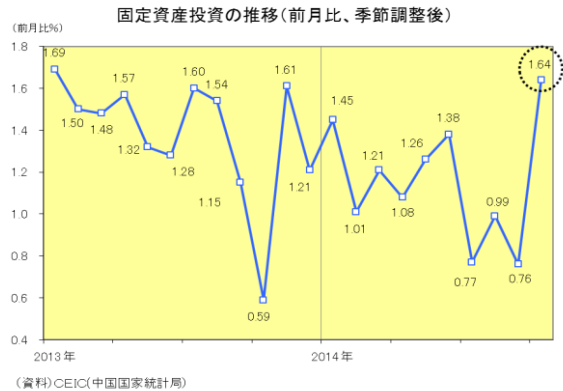
(資料)各種公表データを元にニッセイ基礎研究所で独自作成

¹ 10指標を選択した理由など概要は「[景気の動向を簡単に把握できないか?](#)」ニッセイ年金ストラテジー2014年09月号

[需要面を見る 3 指標]

需要面を見る指標では、3 指標のうち 2 つの指標が○となった。10 月の輸出は季節調整後の前月比で 1.5% 増とさほど悪くないものの○から×に転じた。一方、個人消費の代表指標である小売売上高は同 0.98% 増と 7~9 月の低い伸び(0.8% 台)から回復、投資の代表指標である固定資産投資も同 1.64% 増と改善して×から○に転じた。特に、固定資産投資は 7~9 月の低い伸びから大きく改善、21 ヶ月ぶりの高水準に達しており、今後は若干の反動減もあるだろうが投資には底打ちの兆しがでてきた(図表-2)。

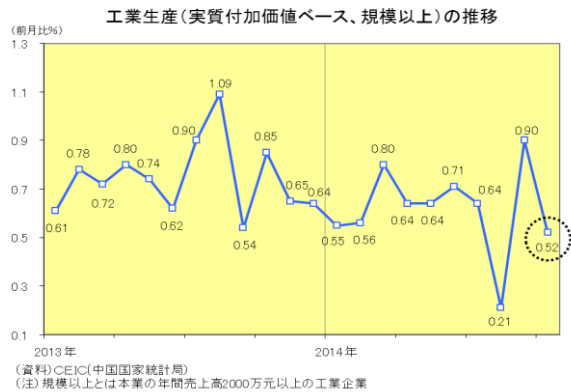
(図表-2)



[供給面を見る 3 指標]

供給面を見る指標は 3 指標が揃って×となった。10 月の工業生産(実質付加価値ベース、規模以上)は季節調整後の前月比で 0.52% 増と前月よりも伸びが鈍り○から×に転じた(図表-3)。製造業・非製造業の動向を見ても、製造業の PMI は 9 月より 0.3% ポイント低下して○から×に転じており、非製造業の商務活動指数も緩やかな鈍化傾向が続いていて、4 ヶ月連続で×となっている。

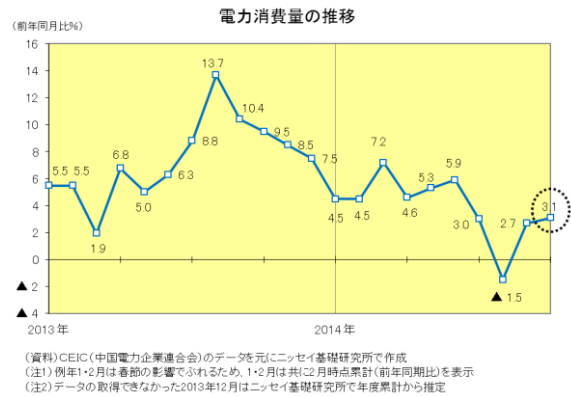
(図表-3)



[その他の重要な 4 指標]

その他の重要な指標では、4 指標のうち○となったのは 1 つだけだった。鉄道貨物輸送量、生産者物価(PPI)、通貨供給量(M2)の 3 つは×のまま、モノの移動、モノの値動き、カネの動きはいずれも下向いている。但し、電力消費量は 5 ヶ月ぶりに×から○に転じた(図表-4)。内訳を見ると、第二次産業の伸びは前年同月比 2.8% 増と低位だが、第三次産業の伸びは同 9.1% 増と明らかに上向いてきた。

(図表-4)



[総括]

10 月の景気評価点は 3 ヶ月連続で 3 点以下と、中国の景気は底這い状態から抜け出せないでいる。投資が大きく改善するなど需要面には底打ちの兆しもあるが、供給面から見ると景気は下向きのままとまっている。今後は、需要の回復が供給の回復に波及していくのか、それとも需要の回復は一時的なものに終わり底這いが続いてしまうのか、来月発表される 11 月の景気指標に注目したい。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。